



「今回の改悪で、同居する高齢の父母の医療費窓口負担が2倍化は、高齢者の負担増だけではなく、現役世代にとっても大きな打撃になる。」とメッセージが寄せられました。

横断幕は目を引き、対話にも活かされ、通りかかった高齢男性は「患者負担が2倍になることは知らなかった」と署名に応じ、宣伝が終わるまで立ち去りませんでした。

### 介護保険部会会場前で宣伝

中央社保協・全労連・日本医労連・東京社保協

9月26日、中央社会保障審議会の介護保険部会が開催される四ツ谷駅近くのビル前で、部会の開始前宣伝に取り組み、10人が駆けつけました。

部会では全世代型社会保障構築会議で出された介護保険制度の改悪項目について論議されることになっており、さらなる改悪はやめて、抜本的な改善をす



## 新生存権裁判東京

口頭弁論 10月27日(木) 東京地裁

10時~10時30分 地裁前宣伝  
11時~ 103号法廷 傍聴  
13時30分~3時 報告集会

衆議院第2議員会館多目的室

学習会 11月15日(火) 14~16時

東京労働会館中会議室+Web

「生活保護費大幅削減のための物価偽装を暴く」

お話 白井 康彦 氏

元中日新聞社生活部編集委員

司会 田川 英信 氏

いのちのとりで裁判全国アクション事務局員

るよう、参加者が次々とマイクを握り訴えました。介護保険制度は発足以来22年間、連続改悪されてきましたが、次期改定にむけて更なる大改悪が狙われています。介護保険の改悪法案を通常国会に提出させない秋の闘いが重要になっています。

### 消費税はただちに5%に減税を!

消費税廃止東京各界連絡会



9月12日、大塚駅頭での定例宣伝行動を8団体14人の参加で実施し、ポケットティッシュ100個を配布するとともに、署名が8筆寄せられました。

### 物価高騰対策、消費税減税とインボイス中止を求める大集会

全国中小業者団体連絡会 主催

コロナ禍と物価高騰で中小業者の危機が広がり、更なる値上げラッシュが懸念されています。「異次元の金融緩和」の継続による物価高と異常円安が引き起こされ、「消費税率の変更を伴わない増税策」インボイス制度の実施で、国民生活は更に苦しめられています。

[とき]11月6日(日)13:00start  
[ところ]都立芝公園(集会広場)

## 東京社保学校

日時 10月15日(土)10~16時(予定)

会場 けんせつプラザ東京5階&Web

講演1 全世代型社会保障制度改革の意図するもの

唐鎌 直義 (佐久大学特任教授)

講演2 直営病院をなくした東京都政の現状

安達 智則 (東京自治問題研究所)

交流 各地域や団体からの活動経験

申込 E-mail・FAX・QRコードからのお申し込みを! WEB参加をご希望の方は、QRコードからの事前登録を!

E-mailまたはFAX又でお申し込みの際は、お名前、所属、電話番号、メールアドレス、参加形態(会場orZOOMの別)をご記入ください。申込書は東京社保協のHPを参照ください。

締切 10月12日 FAX:03-3946-6823 E-mail: syahokyo.tokyo@gmail.com

# 東京社保協ニュース

東京社会保障推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10 東京労働会館6F

TEL: 03-5395-3165 FAX: 03-3946-6823

東京社保協

検索



## 75歳以上の医療費窓口負担2倍化撤回を! 強行は必ず高齢者の健康をむしばむ

東京高齢期運動連絡会 事務局長 菅谷正見



署名は累計83万4,878筆に達しました。毎月の宣伝行動で署名をとり続けた年金者組合の各支部、東京社保協の署名用紙で8,000筆の署名を集めた東都生協、コロナ下の困難ななかでもがんばった民医連、医療生協の仲間など多くの努力の結果です。

神奈川社保協は県内で100カ所を越える2倍化問題の学習会を

コロナ感染の不安から高齢者の中には受診控えが広がり、光熱費や食料品価格の急上昇は、収入の少ない高齢者の生活を直撃しています。6月に支給された分から年金が0.4%引き下げられています。

高齢者のくらしと健康は危機に瀕する中で、10月1日から75歳以上の医療費窓口負担2倍化が強行されました。経済的理由による受診控えが深刻化することは目に見えています。

2倍化ゆるすな! 多くの仲間のたたかい 2倍化実施が迫る9月、強行ゆるすなど、いくつもの地域で仲間が立ち上がりました。

9月4日には大田区の蒲田駅に35名が集まって宣伝行動を行い22筆の署名、6日には杉並区阿佐ヶ谷駅野宣伝行動に30名が参加署名27筆、9日には台東区入谷に40名が結集して手作りプラカードをかがげ宣伝。

10日には江東区高齢者の集い実行委員会のよびかけで東陽町で宣伝が行われ16人が参加し27筆の署名を集めました。宣伝ではどこでも対話が生まれ、怒りが広がっています。東陽町の宣伝では片づけにかかっているところへ、配られた署名ピラに家族の署名を取って持ってきてくれた人もありました。

25日の新宿アルタ前の宣伝行動では、横断幕を見た高齢者が「患者負担が2倍になることは知らなかった」と署名に応じ、宣伝が終わるまでその場を離れないということもありました。

21日に行われた署名提出集会で、中止を求める

組織し運動を大きくひろげました。保険医団体連合会は、臨時国会に向けて各県から集約した署名を持って上京し、国会へ要請を集中しました。

10月1日には、実施強行への抗議をこめて怒りの新宿デモが行われました。

### あくまで2倍化撤回を求めて

高齢期運動連絡会は、社会保障推進協議会・年金者組合・医療団体連絡会議などと共に、「75歳以上の患者窓口負担2倍化は中止、少なくとも延期」の要求をかがげて運動を展開してきました。

窓口負担2倍化実施が強行される中で私たちは、第1に、窓口負担2倍化の直接の被害を受ける1人1人の高齢者の生の声にもとづいて、2倍化によって起こる事態をつかみ、被害の実態を広く宣伝しながら、2倍化の撤回をもとめ、医療費窓口負担ゼロをめざし、75歳以上を差別する後期高齢者医療制度の廃止を要求していきます。

### 共同の輪を広げて新自由主義ストップへ

負担増は、これにとどまりません。次には介護保健利用者負担原則2割化・ケアプラン有料化など介護保険制度の大改悪が続きます。この道の先には、全世代の社会保障総崩れの未来が待っています。

第2に、私たちは、ひとつひとつの課題に取り組む各団体との連帯を深め、青年との交流をも重視しながら、「人権を守れ」の旗を高く掲げ、「全世代型社会保障」路線、新自由主義路線と対決する大きな運動の流れに合流して運動を進めます。

# 75歳以上の医療費2倍化中止署名提出集会



中央社保協、全日本年金者組合、医療団体連絡会議、日本高齢期運動連絡会は9月21日、参議国会館にて、75歳以上医療費2倍化中止署名提出集会を開催しました。当日提出の2万4,878筆を加え、署名の累計は83万4,878筆に達しました。

主催者あいさつで、保険医団体連合会の住江中央社保協代表委員が、困難な高齢者の生活実態をあげ、物価急騰の中で高齢者の医療費負担を増やすなど許せないと述べ、配当、内部留保を増やし続ける大企業にこそ負担をと訴えました。

激励に駆け付けた倉林明子参議院議員は、「高齢者の医療費負担はいのちの問題。年金の引き下げ、物価高騰、生活保護引き下げで、確実に高齢者の生活は困難になっている。臨時国会でこの問題を追及していきたい。」と署名を受け取りました。

参加者からは「2割の保険証が来た。病気があり、負担増は本当に心配」「1割負担でも受診抑制はある。2割負担の実態をつかみ、中止の運動を広げていく」「共同のたたかいを広げてきた。9月29日は怒りの宣伝行動を実施する」と発言がありました。

## ミサイルよりもケアの充実を 中央社保協・全労連・全日本民医連・日本医労連



9月1日「新介護署名キックオフ集会」がオンラインで開催され320人が参加しました。

集会では、全日本民医連の林事務局長が署名の請願項目に沿って学習講演を行い、介護福祉士、介護家族、介護事業所から厳しい現場状況が報告され

るとともに、その実態を変えていきたいとの思いが語られました。

中央社保協の林事務局長が秋の介護の闘い4つの柱として①請願行動をこの秋に集中する②全国で大規模宣伝に打って出る③厚労省（審議会）を包囲する④介護改善運動の共同を広げようと提起しました。

## 第49回中央社保学校開催

第49回中央社保学校が9月17～18日の日程で現地会場とオンラインで開催され、受講者数は過去最高の延べ852名（申込）となりました。東京社保協では、「けんせつプラザ東京」と「地域保健企画ビル」に視聴会場を設け13名が参加しました。

1日目は、宮崎礼二明海大准教授が「安全保障と国民生活」と題して講演し、憲法25条を守ることこそ「安全保障」で、世界的にはその概念は非国家的、非軍事的なものへと発展してきている、伝統的

な安全保障概念に基づいて、マクロ経済循環に新自由主義と親和性のある軍事支出が組み込まれていく瀬戸際になっている日本では、その概念を変え、闘っていく必要があると経済学者の立場から述べました。

その後、コロナ禍での医療や介護現場でのクラスター対応やその教訓、京都から保健所対応の激務と問題点が特別報告としてされました。

2日目は、井口克郎神戸大准教授が「人権としての社会保障と社会保障運動」と題して社保運動入門講座が行われ、社保運動がかつてなく重要になっていることが強調されました。午後からは長友薫輝佛教大准教授がコーディネータとなって、千葉県内の地域社保協の公立病院存続運動や対市個人請願の取り組みやなんでも相談会、天海訴訟支援の運動などがシンポジウム形式で語られました。昼食休憩時には、コロナが終息したら、ぜひ現地千葉へ来て欲しいと安房文化遺産フォーラムの活動がビデオで紹介されました。

来年の中央社保学校は社保運動原点、朝日訴訟のメモリアル地である岡山県で開催されます。



# 各地域・団体の取り組み

## いのち・暮らし・雇用 なんでも相談会 北区なんでも相談会実行委員会



8月23日、王子駅前三角公園に於いて62回目となる「なんでも相談会」を開催し、6人が相談に来られました。70代登録ヘルパーの方は、低収入と低年金で、貯金が底をつく状況が迫っており、団地の賃貸料が心配という相談でした。

毎月多様な学生が参加するようになって、今月は都内社会福祉系の私大から学生2人（MSW志望）が講師といっしょに参加しました。ゴミ屋敷の相談にMSWが方向性を伝える姿勢に「相談会から学ぶのは難しいのでは？」と思っていたが、対応する姿勢が学びになった。」胸のつかえがとれた、相談してみてもよかったという事例に立ち合い「話を聞くことの大切さを感じた。」などの感想が出されました。

他に2つの大学から参加した医学生4人に、医師が相談の合間に「何に注意し、どこを聞くようにしているか」を解説する姿も見られました。偶然、自分も住んでいた団地からの相談者がいたり、身近に感じることもあるなど、学生たちはテントの設営から撤去まで参加しました。講師の先生に、相談事例検討会への参加を薦めるなど、相談会実行委員会が若者の教育的な場に協力できることが励みになっています。

## ＜なんでも相談会だより No. 27より＞ 第6回コロナに負けない！生活支援・相談プロジェクト 葛飾社保協

8月27日、生活支援・相談プロジェクトが曳舟親水公園で開催され、要員ボランティアに13団体から57人が参加し、総勢300人を超える支援プロジェクトとなりました。

今回も、熱中症対策とコロナや健康等へ配慮し、整理券を発行し、50人ずつ時間指定をして密を避



ける工夫をしました。10時から袋詰め作業を行い、①お米とビスケット、②枝豆（水元の畑で連絡会スタッフが収穫してきたもの）とナス、③レンコン・トウガン・ナスの生鮮野菜、④レトルト食品と、支援品が用意され、手際よく支援物資を配れるように心がけました。最終では270人を超える人たちが、生活支援物資や女性の衛生材料を受け取りに来られ、コロナ禍と物価高での暮らしの厳しさがうかがえました。

＜葛飾連絡会ニュース No. 6より＞

## 75歳以上医療費の窓口負担2倍化やめて 4の目定例宣伝行動



中央社保協・東京社保協共催の定例宣伝行動を巣鴨駅前で9月14日に行いました。10月から実施が予定されている75歳以上の医療費窓口負担2倍化中止・延期の訴えに36名が参加しました。

## 「4の目」定例宣伝行動 巣鴨駅前 状況により中止の場合もあります -10月14日(金)12～13時 -11月14日(月)12～13時

## 国葬よりいのちを守れ9.25怒りの新宿宣伝

9月25日、中央社保協など4団体が新宿駅東口で、「今からでも国葬中止を」「窓口負担はだれでもゼロがあたりまえ、10月からの75歳以上医療費窓口負担2倍化の中止・延期を」「物価急騰下の強行はゆるせない」と署名・宣伝を行いました。